



印西市 スポーツ振興 基本計画

スポーツわいわい
みんな生きいき
いんざい元気

平成20年3月
印西市
Inzai City



はじめに

本市におきましては、市民一人ひとりが健康で生きいきした生活を送るため、誰もが気軽にスポーツやレクリエーションに親しみ、健康の保持、増進が図れるような環境づくりに取り組んでいるところでございます。

スポーツは、体を動かすという人間の本源的な欲求にこたえとともに、爽快感、達成感などの精神的充足や楽しさ、喜びをもたらし、さらには、体力の向上や、精神的なストレスの発散、生活習慣病の予防など、心身の両面にわたる健康の保持増進に資するものであります。

また、スポーツをする市民自らが、共に育つ、共に感動する、共に行動するなどの意識を高めることにより、市民生活を豊かにし、地域に活力をもたらし、豊かなコミュニティ環境を創出する役割を担っていくものとして期待されています。

このような中、本市ではスポーツ振興にかかわる施策を総合的、中長期的に取り組んでいくため「印西市スポーツ振興基本計画」を策定いたしました。

本計画は、「スポーツわいわい みんな生きいき いんざい元気」を本市が目指すスポーツ振興の基本理念とし、これを実現するための基本方針として「するスポーツ」の振興、「みるスポーツ」の振興、「ささえるスポーツ」の振興と定め、各施策の取り組みを体系的にとりまとめました。

本計画の推進により、幼児期から老年期まで、市民の誰もがスポーツに親しめる環境づくりを進めながら、スポーツ活動を通じた健康づくりや生きがいづくりの機会や場を広げ、ひいては豊かな地域社会の実現を図ってまいります。

結びに、この計画の策定にあたりまして、審議会委員の皆様をはじめ、ご指導・ご協力いただきました市民の皆様から心から感謝申し上げますとともに、今後とも本市のスポーツ振興に向け、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

平成20年3月

印西市長 山崎山洋

もくじ

はじめに	1
序章 計画策定にあたって	5
1. 計画策定の趣旨	5
2. 計画の位置づけ	5
3. 計画の期間	5
第1章 計画策定の背景	6
1-1 スポーツを取り巻く環境	6
1-2 スポーツの意義と効果	6
第2章 市民のスポーツの現状と課題	8
2-1 子どものスポーツ活動	8
2-2 大人のスポーツ活動	11
2-3 高齢者の健康づくりとスポーツ活動	15
2-4 障害者の健康づくりとスポーツ活動	17
2-5 スポーツ施設について	18
第3章 計画の基本的方向	21
3-1 計画の基本理念	21
3-2 計画の基本方針	22
3-3 施策の体系	27
第4章 主要施策	29
4-1 スポーツ環境の整備	29
4-2 スポーツ人材の育成	32
4-3 スポーツ機会の充実	35
4-4 スポーツ推進体制の整備	41
4-5 数値目標	46
参考資料	47

序章 計画策定にあたって

1. 計画策定の趣旨

本計画は、地域社会におけるスポーツの意義及び本市の現状と課題をふまえ、国や県等のスポーツに関連する一連の諸計画・施策と連携し、推進していくとともに、本市のまちづくり計画と一体性のある「スポーツ振興の施策」として策定します。

2. 計画の位置づけ

「印西市第2次基本計画」の課題別施策の方向では、市民の誰もが気軽にスポーツに親しみながら、健康の増進を図り、市民相互の交流を促進するなど、生涯スポーツの振興を図るため、市民のスポーツ・レクリエーションニーズに対応した施設の整備・拡充、指導者の育成、各種団体への支援を図ることとしています。

本計画は、これら印西市上位計画、関係計画と、国の「スポーツ振興計画」及び「千葉県体育・スポーツ振興計画」と連携したスポーツ振興に関する総合的計画と位置づけます。

3. 計画の期間

本計画の期間は平成20年度から平成29年度までの10年間とします。この期間中、進捗状況や社会情勢の変化に応じて計画の見直しの必要性が生じた場合は、適切に対応します。

【スポーツの定義について】

〈スポーツ〉ということばは、広義には、楽しみや健康を求めて自発的に行われる運動をいい、狭義には、競争として行われる運動を意味する（スポーツ大辞典・日本体育協会監修）。本計画ではスポーツを広義の意味で捉えています。なお、「競技スポーツ」とは、身体能力・技術力等を極限まで高め競いあうことを目的として行うスポーツをいい、「生涯スポーツ」「ニュースポーツ」は、生涯を通して楽しみながら行うスポーツのこととしています。

第1章 計画策定の背景

1-1 スポーツを取り巻く環境

生活スタイルの多様化とともに、スポーツ環境も大きく変化しています。市民の自由時間活動は多様化し、スポーツを共有し交流を深めることで積極的に地域社会に参加し、活動の範囲を広げようとする市民が増えてきています。自分の健康や体力に応じた様々なスポーツ活動を通じて、明日に備えて体を鍛えるといった健康づくりも盛んです。また、スポーツを通じた家族とのふれあい、地域や職場の仲間との交流も活発化してきています。

スポーツ活動は、学校や行政が進める以外に、民間事業者が行うスポーツ施設やスポーツクラブでの活動、競技団体や市民自身が行う自主的なスポーツ活動など、様々な方面で大きな広がりを見せています。

スポーツは元気の源、地域活力の創造源として、新しい発想（地域経営や地域福祉の充実など）からも地域の発展に大きな役割を果たすものとして期待されています。

1-2 スポーツの意義と効果

スポーツは一人でも二人でも大勢でも活動でき、健康の維持や体力の向上、ゲームの楽しさ、自然とのふれあい、家族や仲間とのコミュニケーション、あるいはチャンピオンを目指すことなど、様々な目的を持っています。このように人々の生活にゆとりと豊かさをもたらすものとして、以下のような、多様な意義と効果を有しています。

（1）青少年の健全育成

子どもたちがスポーツ活動に参加することは、ルールやマナーの尊重、正義感や倫理観、連帯感、思いやりの心を育みます。また、仲間や指導者との交流を通じたコミュニケーション能力の育成や思いやりの心を培うなど、青少年の健全育成に大きく寄与します。

一方、子どもたちが戸外での遊びの機会が少なくなり、仲間とのふれあいの機会の減少や運動不足と持久力の低下、生活習慣病の増加なども課題となっていることから、子どものスポーツ活動は心身の発育に大きく寄与するものです。

(2) 地域社会への回帰と健康保持・増進

会社で定年を迎えた世代の、これまで「家庭－会社（仕事）」という基本行動が、必然的に「家庭－地域（交流）」になります。しかしながら、定年を機にスムーズに地域社会になじんでいくことは難しいものです。中高年齢者が、地域社会に親しみ、地域で生きいきと暮らすための契機として、スポーツは有効な手段になります。

また、子育て等で多忙な親たちや高齢者、障害者などが、安心して暮らせる地域づくりのために、交流を促進するスポーツの振興は大きな役割を果たすことが期待されます。

さらに、慢性的な運動不足が様々な健康障害（メタボリックシンドローム等）をもたらすことが指摘されており、市民の肥満や生活習慣病予防の観点からもスポーツ振興は重要です。他方、高齢化の進展とともに、寝たきりなど要介護高齢者の増加が予測されますが、高齢者がスポーツに親しむことは、高齢者の自立や健康保持に寄与し、結果として医療費の削減や介護予防への効果も期待できます。

(3) 生きがいとうるおいのある市民生活

スポーツは特別な機会に「まれにする」ものではなく、日常生活の中にしっかり組み込まれ「いつでもする」ことが大切です。

スポーツは一人でするものもありますが、個人スポーツであっても多くは仲間とのコミュニケーションがあり、自然に仲間意識や連帯意識が醸成されるものです。健康・体力づくり等の効果以上に、こうした副次的な効果も期待できます。

する人はもちろん、みる仲間・家族、ささえるボランティア活動などコミュニティの活性化にスポーツはなくてはならないものです。例えば、青少年のスポーツ活動を例にすれば、「活動する子どもたちの健全育成」＋「活動する子どもを観る家族の楽しみ」＋「活動とともにささえあう仲間（指導者・家族・地域）」というように、スポーツを通じて生きいきとした地域社会づくりが可能になります。

第2章 市民のスポーツの現状と課題

2-1 子どものスポーツ活動

(1) スポーツ参加率・参加時間の減少

小学校5年生で84.5%、中学校2年生で74.2%が学校のスポーツクラブや運動部活動に参加しています（児童・生徒向けアンケート調査）。なお、平成18年度体力・運動能力テスト結果を全国平均との比較でみると、本市の小・中学生のそれはほとんどの種目で全国平均を上回っています。

豊かな自然環境やスポーツ環境があり、子どもたちのスポーツ活動は比較的活発であるとも言えますが、しかし、近年では、スポーツ少年団に加盟している各スポーツクラブにおいては、子どもの参加者数が減っているとともに、参加率・参加時間も減少しているのが現状です。

子どもたちにとっては、「スポーツだけでない」行動が増えており、小学生では、学校から帰ると「友達とスポーツ」が最も多いものの、「テレビをみる」「勉強や学習塾」も4割を超えているようにスポーツ以外の活動が多くなっていることがうかがえます。

子どもたちの心身の健全な育成のためには、スポーツ参加率や参加時間を増やしていくことが大切です。

【参考資料】ふだん学校から帰ったら何をしていますか（複数回答）

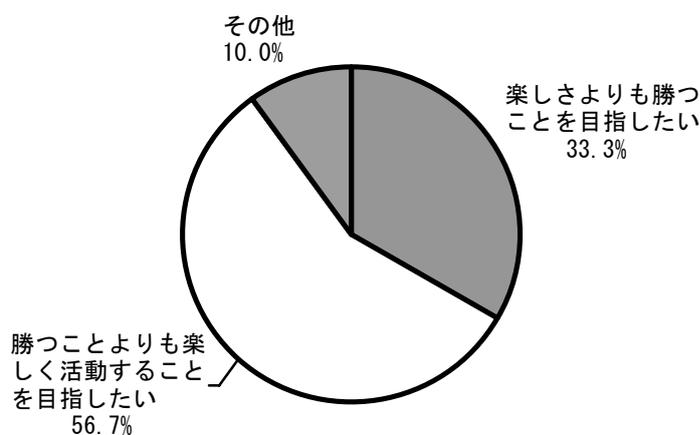
小学校5年生＝「友達とスポーツ」45.6%、「テレビをみる」42.9%、「勉強や学習塾」40.1%

中学校2年生＝「テレビをみる」63.0%、「勉強や学習塾」47.5%、「マンガ・雑誌・本を読む」44.8%、・・・「友達とスポーツ」9.9%

(2) スポーツ活動の多様性への対応

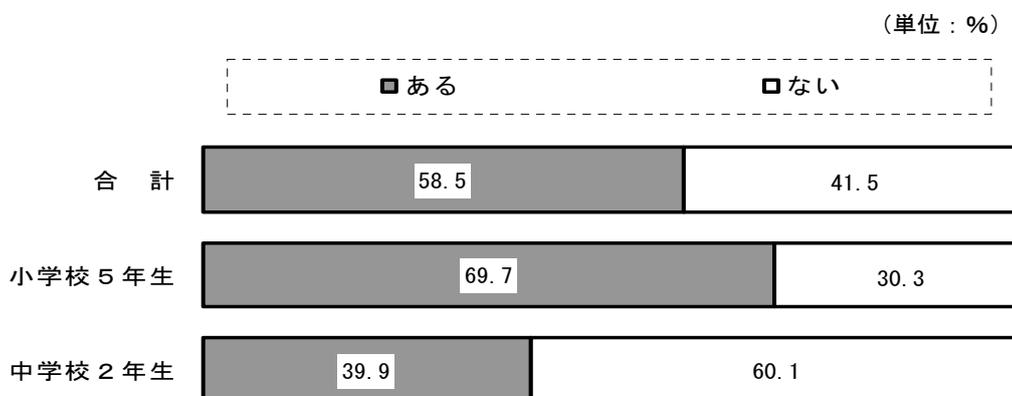
児童・生徒向けアンケート調査結果（中学校2年生）によれば、学校の運動部活動に求めることは、「勝つことよりも楽しく活動することを目指したい」が56.7%、「楽しさよりも勝つことを目指したい」が33.3%となっており、スポーツに「楽しさ」を多く求めていることがわかります（中学校2年生）。

【参考資料】運動部活動の目標としては、どのようなことがよいと思いますか（単一回答）

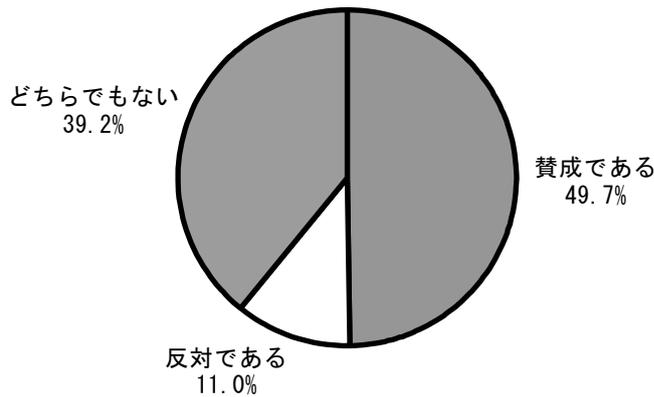


また、子どもたちのスポーツ活動は、単一種目に特化してではなく、多種多様なスポーツを体験してみたいというニーズや、他の学校との合同練習などに対するニーズもあり、多様化していることがうかがえます。

【参考資料】学校の運動部活動以外で行ってみたいスポーツはありますか（単一回答）



【参考資料】市内の他の中学校と合同して運動部活動をするについて（単一回答）



なお、児童・生徒向けアンケート調査結果によれば、現在父親や母親がスポーツをしているかまたは過去にスポーツをしていた子どものほうが、スポーツへの関心度も高く、学校やそれ以外でのスポーツクラブへの参加率が高くなっており、親世代のスポーツ参加率を高めることで、子どもたちの参加率も上がっていくものと考えられます。

また、一般向けアンケート調査では、スポーツを始めたきっかけの多くが学校スポーツであることから、生涯にわたってのスポーツ活動の原点として、子どもたちのスポーツ活動をより一層推進していくことが求められます。

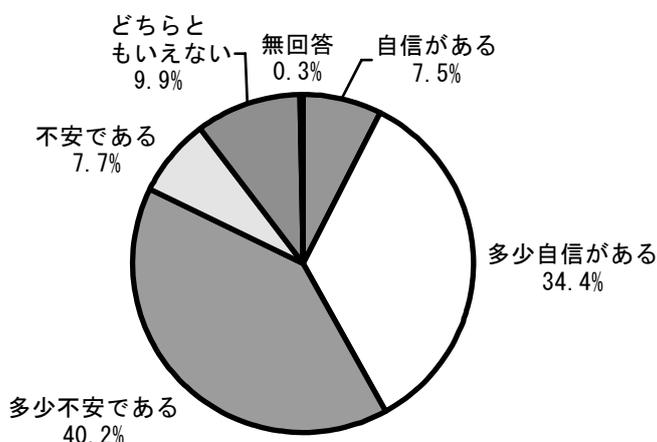


2-2 大人のスポーツ活動

(1) 健康と体力への不安

一般向けアンケート調査結果によれば、自分の体力については、「多少不安である」が40.2%で最も多く、「不安である」7.7%を合計すると、体力に「不安がある」人が約5割になっています。

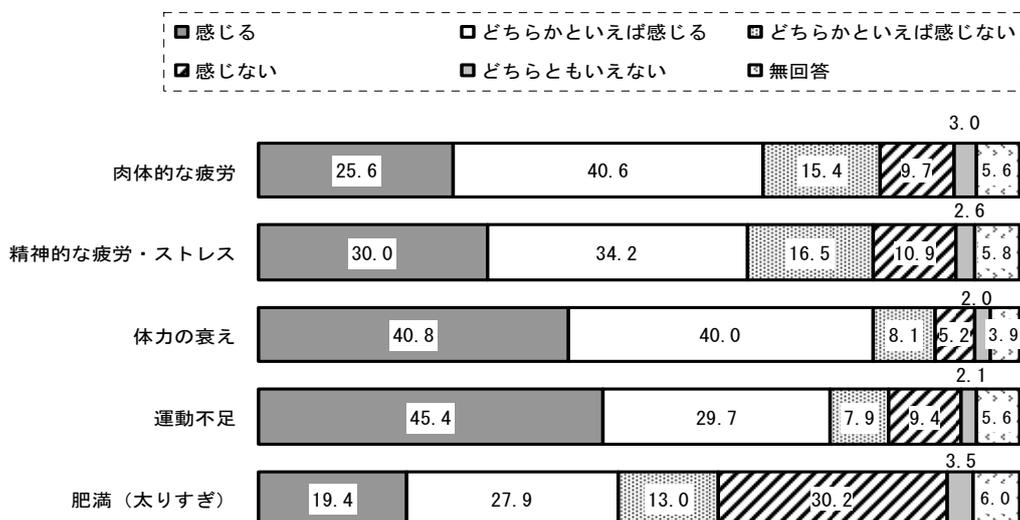
【参考資料】自分の体力について自信がありますか（単一回答）



また、体力については、運動不足や体力の衰えを感じている人が多くなっており、体力の向上を図る上でも、大人のスポーツ活動を支援していく必要があります。

【参考資料】健康・体力について普段どのように感じていますか（単一回答）

（単位：％）



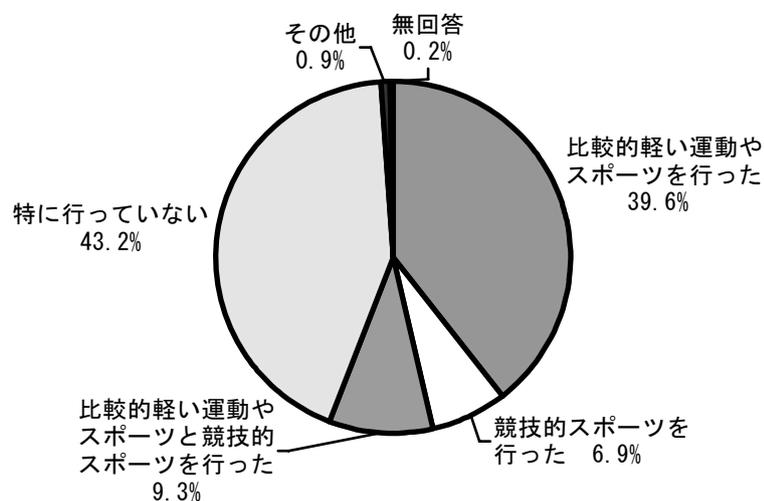
(2) 市民へのスポーツ機会の増大

一般向けアンケート調査結果によれば、スポーツを行ったり観戦したりすることが「好き」が80.5%となっており、市民のスポーツへの関心度は高いと考えられます。また、過去1年位の間に「スポーツを行った」人は55.8%で、「行っていない」が43.2%です。

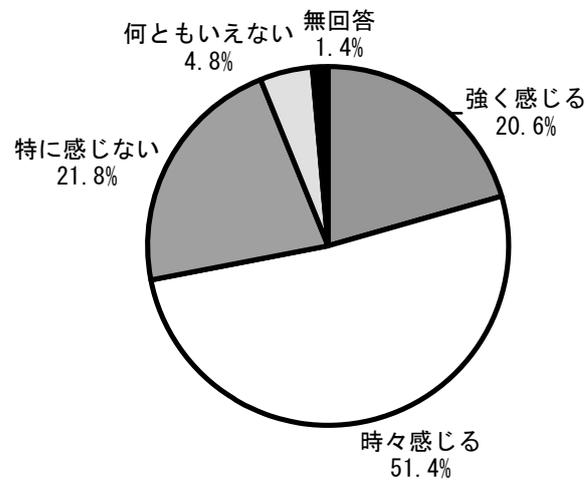
一方、「普段もっとスポーツを行いたい」と感じている人は72.0%になっています。スポーツを行わなかった理由として、「仕事（家事・育児）が忙しくて時間がないから」45.1%、「する機会がない」38.6%、その他「体力に自信がないから」「歳をとったから」「お金がかかるから」が14.9%などとなっています。

また、スポーツをするときに妨げになることは何かについては、「仕事(家事・育児)が忙しい」37.2%、「時間がない」36.9%、「お金がかかる」30.0%、「場所が足りない」21.2%、「施設までの距離が遠い(交通のアクセスが悪い)」16.5%などとなっており、日常生活の中でスポーツ活動ができない状況もあります。

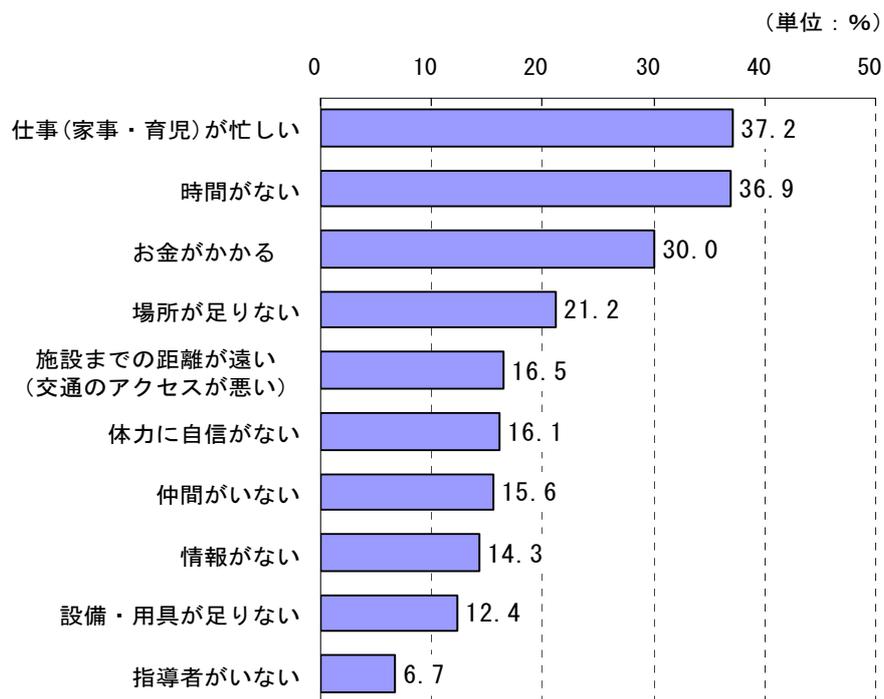
【参考資料】 過去1年位の間に何らかのスポーツを行いましたか（単一回答）



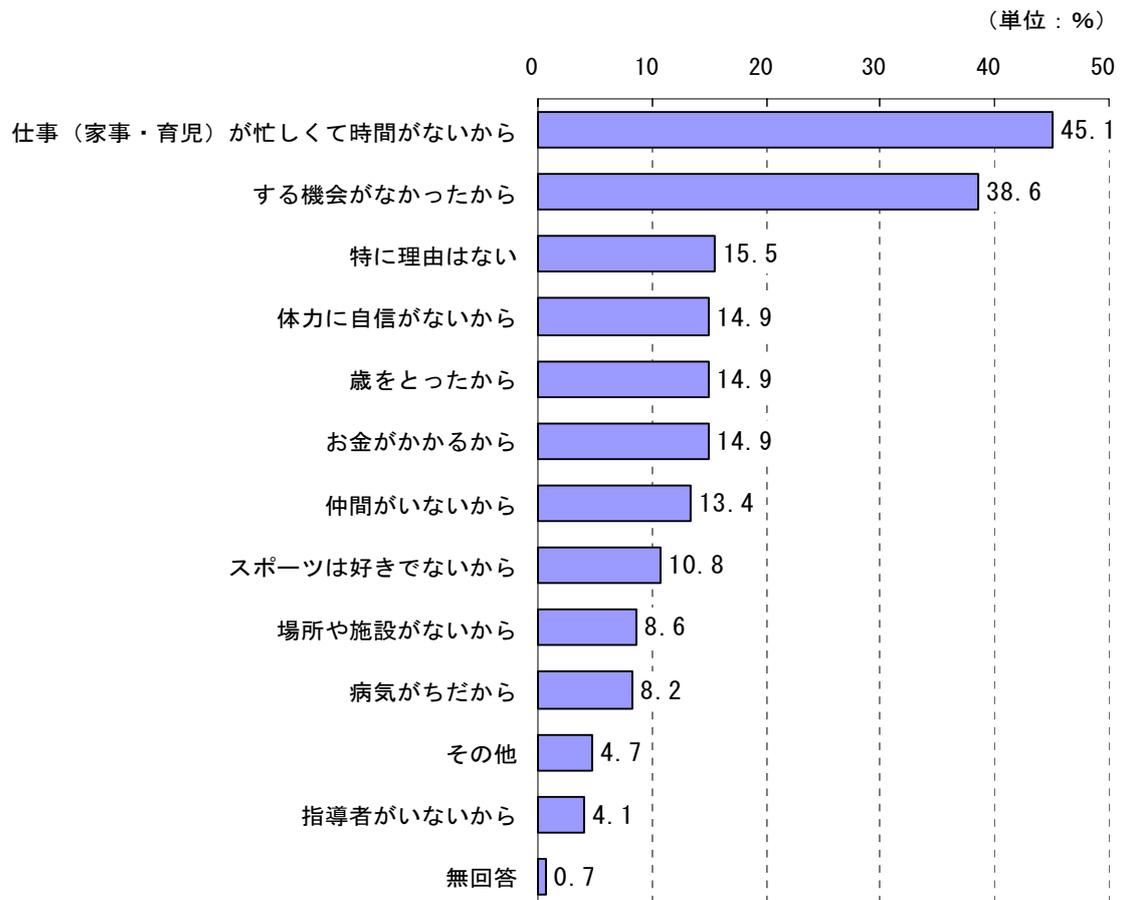
【参考資料】 普段もっとスポーツを行いたいと思うことはありますか（単一回答）



【参考資料】 スポーツを行わなかった理由（複数回答）



【参考資料】 スポーツをするときに妨げになることは何ですか 上位 10 位 (複数回答)



2-3 高齢者の健康づくりとスポーツ活動

我が国は少子高齢化傾向にあり、本市中央に位置する千葉ニュータウン地区は比較的若い世代が多く住んでいますが、児童・生徒数は減少し、高齢者（65歳以上）が増加しています。

本市の平成19年3月末現在の状況では、年少人口（14歳以下）比率は14.0%、高齢者人口比率は13.0%であり、第2次基本計画の目標年度（平成22年度）では、それぞれ11.6%、14.5%になることが予測されています。人口ピラミッドを見てみると、現在は50歳代の人口が多く、政策的な人口の増減がないことを前提にすれば、10年後の高齢化率はさらに高まるものと予測されます。

一般向けアンケート調査結果によれば、本市の60歳以上の高齢者のスポーツに関する意識は、スポーツを観戦したり行うのが「好き」が75.0%となっており、スポーツへの関心度は高いと考えられます。しかし、この1年間にスポーツを行った人は60歳台では男性49.1%、女性46.4%、70歳以上では男性46.6%、女性33.4%となっています。

【参考資料】過去1年位の間に何らかのスポーツを行いましたか（単一回答）

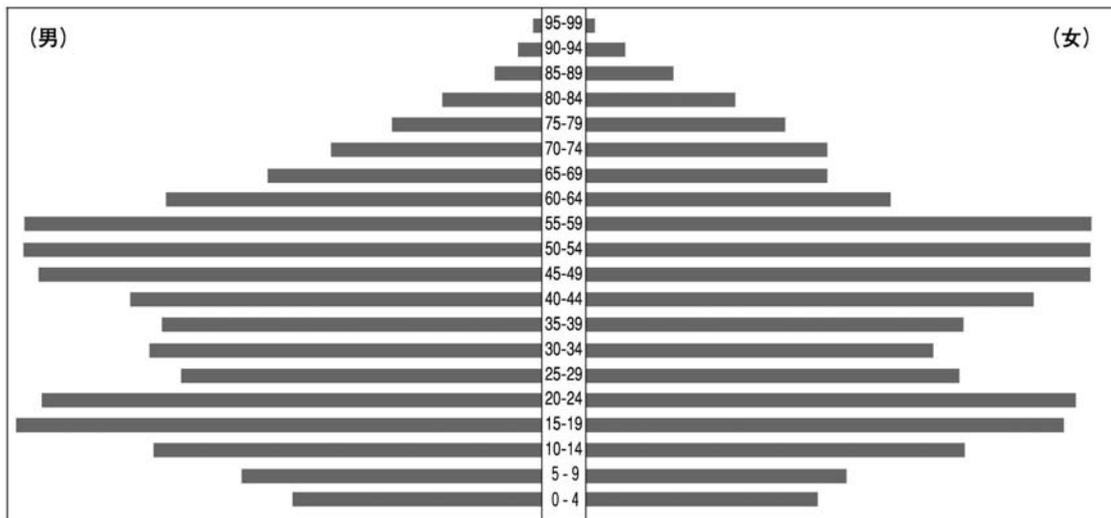
上段：男性

下段：女性（単位：%）

	合計	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
合 計	(559)	(7)	(59)	(66)	(105)	(143)	(106)	(73)
	(681)	(16)	(66)	(88)	(166)	(178)	(95)	(72)
1. 比較的軽い運動やスポーツを行った	37.4	28.6	44.1	28.8	39.0	46.2	32.1	28.8
	41.4	25.0	53.0	40.9	41.6	43.8	41.1	29.2
2. 競技的スポーツを行った	9.1	42.9	18.6	15.2	11.4	2.8	5.7	6.8
	5.0	37.5	1.5	2.3	7.8	4.5	1.1	4.2
3. 比較的軽い運動やスポーツと競技的スポーツを行った	11.3	0.0	11.9	13.6	12.4	9.8	11.3	11.0
	7.6	18.8	12.1	9.1	9.0	7.9	4.2	0.0
4. 特に行ってない	41.0	28.6	23.7	42.4	36.2	39.2	50.9	50.7
	45.1	18.8	33.3	47.7	41.0	43.8	51.6	62.5
5. その他	1.1	0.0	0.0	0.0	1.0	2.1	0.0	2.7
	0.7	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	2.1	2.8
無回答	0.2	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4

注) ()内の数値は全回答者数。

高齢化の進行とともに、高齢者の健康づくりや生きがいづくりが大きな課題になってきます。高齢者が日常生活において運動やスポーツ活動を行うことは、体力づくりや健康保持増進に寄与するばかりでなく、スポーツを通じた交流によって明るく生きいきとした社会生活を営むことができます。また、これは結果として医療費や介護費の軽減につながることから、高齢者の運動・スポーツ活動へのさらなる参加促進が必要になっています。



印西市の人口構成(平成19年3月末現在)



2-4 障害者の健康づくりとスポーツ活動

障害者が、地域の中で健常者と同じように暮らすことができるというノーマライゼーションの考え方が浸透しつつありますが、障害者がスポーツに参加する機会は少ないと考えられます。しかし、障害者にとっても運動やスポーツ活動への参加は、健康・体力づくりに寄与するだけでなく、生きがいつくりにも重要な要素となります。

障害者がスポーツ活動に参加するためには、障害者向けの種目の開発・育成とともに、スポーツボランティアなどの協力により、参加しやすくするための様々なサポート体制が必要になっています。

【ノーマライゼーションとは】

障害を持つ人や適応力の乏しい高齢者の生活を、できる限り健常者の生活と同じように営めるようにすること。また、障害者や高齢者にかかわらずあらゆる人が共に住み、共に生活できるような社会を築くこと。

2-5 スポーツ施設について

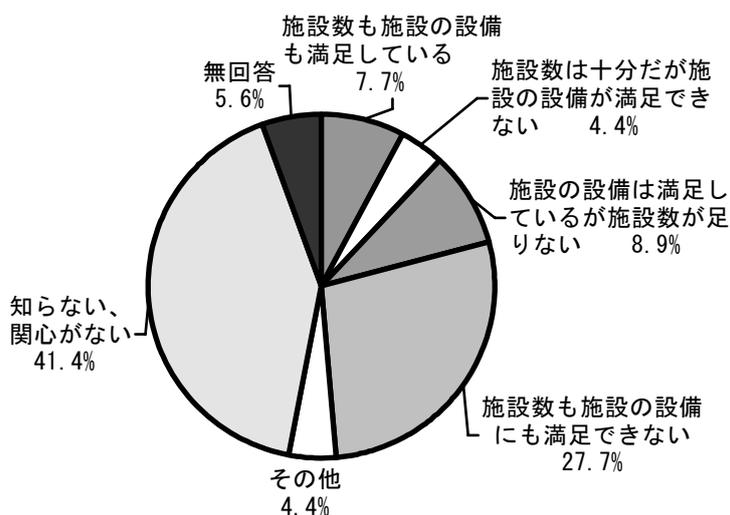
(1) 既存スポーツ施設へのニーズ

スポーツ施設について、アンケート調査結果によれば、「満足している」は1割未満しかなく、「施設数も施設の設備にも満足できない」27.7%、「施設の設備は満足しているが施設数が足りない」8.9%などとなっています。また、イベント時の駐車スペースやバックヤード（附帯施設）の充実も求められています。同時に高齢者・障害者のスポーツ活動への参加に際し、施設のバリアフリー化も重要な課題になっています。

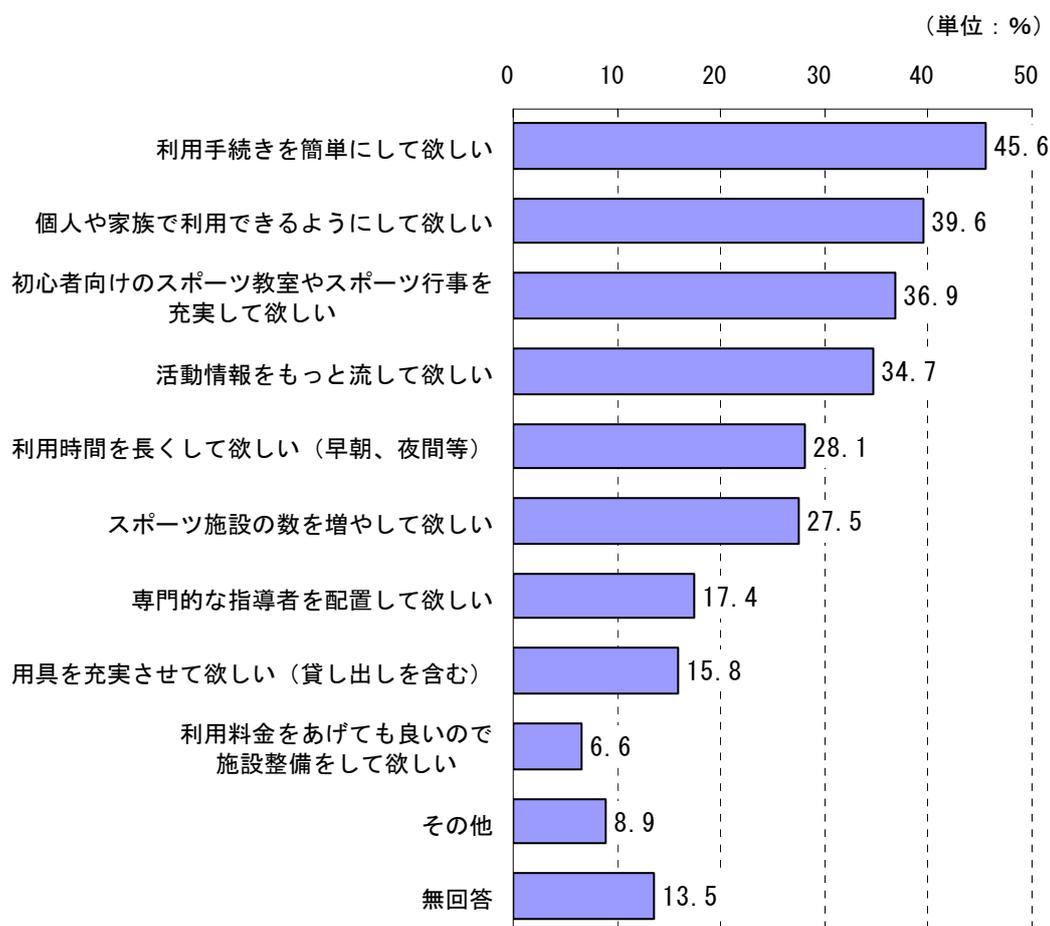
他方、スポーツ施設の利用に関して、「利用手続きを簡単にしたい」45.6%、「個人や家族で利用できるようにしたい」39.6%、「初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事を充実してほしい」36.9%、「活動情報をもっと流してほしい」34.7%、「利用時間を長くしてほしい（早朝、夜間等）」28.1%など、多様な要望が寄せられています。

なお、本市では、市民の身近なスポーツ施設として、小中学校等の学校体育施設開放事業を実施し、多くのスポーツ団体が利活用しています。しかし、利用団体の過多、利用手続など、施設管理において課題もあります。

【参考資料】 印西市内に十分なスポーツ施設があると思いますか（単一回答）



【参考資料】 スポーツ施設に望むことは何ですか（複数回答）

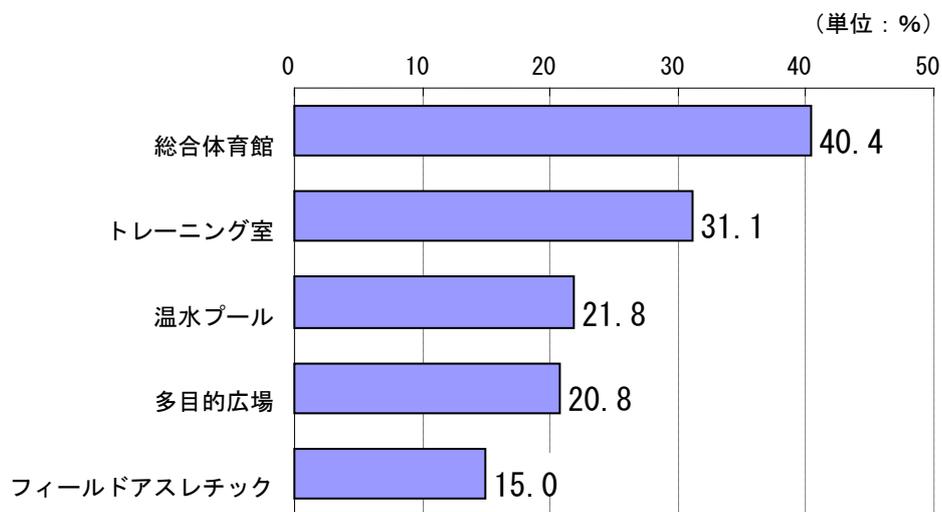


(2) 新規スポーツ施設へのニーズ

印西市に整備して欲しいと思う施設としては、「総合体育館」が40.4%で最も多く、次に「トレーニング室」が31.1%、以下「温水プール」が21.8%、「多目的広場」が20.8%などとなっています。

現在、市内にはスポーツイベント等が開催できる屋内スポーツ施設が整備されておらず、多くの市民やスポーツ関係団体から「総合体育館」の設置が要望されています。

【参考資料】 今後、印西市に整備して欲しいと思う施設は何ですか 上位5位（複数回答）



第3章 計画の基本的方向

3-1 計画の基本理念

スポーツわいわい みんな生きいき いんざい元気

スポーツは、健康づくりや生きがいをづくり、家族や仲間、地域の人たちと協力しあいながら、生きいきとした生活を送ることを可能にするものです。

子どもから高齢者まですべての市民が、そのライフステージごとに、それぞれに適したスポーツに親しんで、体力の向上や健康の保持増進を図っていただけるよう、市民の豊かなスポーツライフを実現します。また、これらの活動を通じて健全な心を育て、家族・地域とのふれあいや絆を深めることができる、明るく健康で活力に満ちた生涯スポーツ社会「いんざい元気」を築きます。

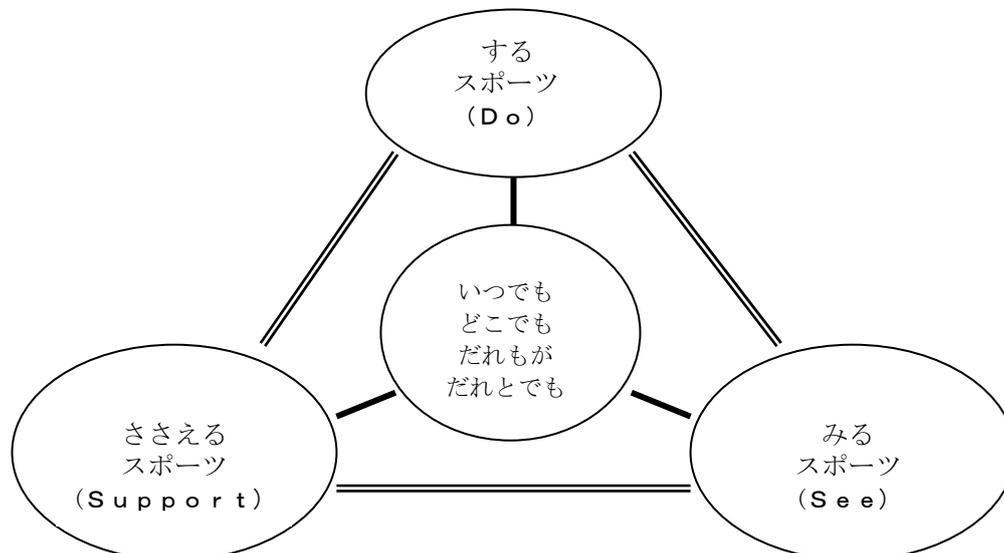


3-2 計画の基本方針

スポーツは、すべての市民にとって必要不可欠な生活の一部であるという認識を持つことが重要です。また、スポーツは、体力・技能にすぐれた特定の人々や、若者、健常者のためだけにあるものではありません。すべての人々が等しくスポーツに親しむことのできるハードウェア（施設）・ソフトウェア（仕組み）・ヒューマンウェア（指導者）が必要であり、そのため、「するスポーツ」「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」として基本方針を定め、「いつでも、どこでも、だれもが、だれとでも」利活用できるスポーツ環境を整備・推進していきます。

印西市の10年後のスポーツ環境のイメージ

- 子どもたちは放課後、学校や様々なスポーツクラブで友だちとスポーツをしたり、遊んだりして過ごしています。
- 地域では「総合型地域スポーツクラブ」を基盤として、多くの市民が多様なスポーツ活動に参加しています。
- 高齢者は地域の仲間とともに様々な運動やスポーツを楽しんでいます。
- 障害者はスポーツボランティア等のサポートにより運動やスポーツをしています。
- 松山下公園では、陸上競技場や野球場、テニスコート、総合体育館が整備され、多種多様なスポーツイベントが開催され、市内外の多くの人を楽しんでいます。
- 公園や多目的広場も日常的なスポーツ施設として市民が活用しています。
- 市民は施設やイベント、指導者など様々なスポーツ情報をいつでも知ることができます。
- スポーツ指導者やスポーツボランティアなど多彩な人材が市民のスポーツ活動を協力・支援しています。



(1)「するスポーツ」の振興

「するスポーツ」を振興していくためには、市民が気楽に参加できる機会が、身近にあることが必要です。市民一人ひとりが生涯にわたりスポーツ活動を楽しむことができるとともに、体力の向上や健康づくりに寄与できるよう施策を推進していきます。

①市民のだれもがスポーツを楽しむ環境づくり

市民のスポーツニーズに応じたスポーツ環境が求められます。特に、子どもたちの参加は、生涯にわたるスポーツ活動の原点となることから、継続して親しみ楽しめる環境をつくります。

②競いあう環境づくり

スポーツの楽しみの一つに「競う」ことがあります。「競う環境」づくりのため、計画的・組織的に選手を育成する指導体制の確立や、指導者育成を支援し、競技レベルの向上を図ります。

③参加し、交流する環境づくり

スポーツを通じた地域交流を推進するため、子どもから高齢者までの多世代間で気軽に参加して楽しめるスポーツの普及促進を図るとともにスポーツイベント等を積極的に支援し、地域コミュニティ意識の高揚につとめます。



(2)「みるスポーツ」の振興

トップアスリートによる競技は、人間の可能性に挑戦する姿が観戦者を魅了し感動を与え、スポーツへの参加意欲を喚起します。

また、家族や友人・知人など身近な人がプレーする姿をみて応援し、一体感を持つこともスポーツの楽しみであり、こうした「みるスポーツ」の機会の充実は、生活に潤いと豊かさをもたらします。

①スポーツイベントの充実

本市においては、いくつかの全国的イベントが開催されておりますが、今後は、市民参加型のスポーツイベントや近隣スポーツ大会との共催も視野に入れながら、市民や関係団体、企業等と連携しイベントの活性化に取り組んでいきます。

②身近なスポーツ活動の応援

「みるスポーツ」は大会やイベントだけでなく、日常のスポーツ活動の場においても、練習や試合を応援し、終わった後の歓談や交流に参加するなど、楽しく過ごすことができます。このことが連帯感を生み、愛着のあるコミュニティを創出することから、「みるスポーツ」のための環境を整備します。



(3)「ささえるスポーツ」の振興

多様化した市民のスポーツ活動を支えるためには、スポーツ指導者やスポーツボランティア、様々な相談や問い合わせに対応できる人材が不可欠です。

これらの人材は地域スポーツ団体の育成や活動支援、さらにはスポーツを通じたまちづくりにも大きな役割を果たします。

①多様なスポーツ人材の育成

スポーツに関わる多種多様な人材を育成するとともに、その活用により「ささえるスポーツ」を推進していきます。

②スポーツ活動をささえる仕組みづくり

スポーツ指導者やスポーツボランティアの存在と役割を市民にわかりやすく周知し、スポーツ人材の積極的な活用を図っていきます。

また、スポーツに関する様々な情報を収集整理し、市民がこれらの情報を有効に利活用できる仕組みをつくっていきます。



3 - 3 施策の体系

基本理念

スポーツわいわい

みんないきいき

いんざい元気

基本方針

「するスポーツ」の振興

・市民のだれもがスポーツを楽しむ環境づくり
・競いあう環境づくり
・参加し、交流する環境づくり

「みるスポーツ」の振興

・スポーツイベントの充実
・身近なスポーツ活動の応援

「ささえるスポーツ」の振興

・多様なスポーツ人材の育成
・スポーツ活動をささえる仕組みづくり

施策の柱

具体的な施策

事業等（は重点事業）



第4章 主要施策

4-1 スポーツ環境の整備

従来、スポーツ施設の多くは「するスポーツ」を中心に整備が進められていましたが、今後は、「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」で交流することを意識しながら、バックヤード（附帯施設）整備やバリアフリー化を推進し、多様化する市民のスポーツニーズに対応できるよう環境整備につとめます。

また、市民の日常スポーツ活動の場づくりに加え、大規模なイベント等に対応できるスポーツ施設の整備を推進していきます。

施策の柱

(1) スポーツ施設の整備・充実

(2) 利用しやすいスポーツ施設の運営



【重点事業について】

各種スポーツ振興施策の関連する事業の中で、当初の5年間で集中的に実施する事業を「重点事業」として取り組みます。この期間は、スポーツ環境の新たな骨格づくりをする期間として位置づけます。

(1) スポーツ施設の整備・充実

施策の概要

これまで整備されてきた各地域のスポーツ関係施設を、社会環境、地理的環境、地域のニーズ、スポーツニーズなどの変化に合わせて見直し、すべての人が利用しやすくするために、アクセス環境などを考慮し、適切な施設整備を体系的・計画的に進めます。

具体的な施策と事業等

施 策	事 業 等 (◎は重点事業)
<p>①松山下公園の整備 松山下公園を市民のスポーツ活動の拠点として、大規模なスポーツイベントが開催可能な機能、設備を備えた施設を整備していきます。</p>	<p>◎情報拠点・交流拠点の整備 スポーツ団体や市民が、情報交流・人的交流ができるよう設備・機器等を整備していきます。</p> <p>○主要スポーツ施設の整備 陸上競技場、野球場、総合体育館、テニスコート等市民のスポーツニーズに対応するため、高水準の機能、設備を備えた施設整備につとめます。</p>
<p>②自然とふれあえるスポーツ施設の整備 河川や湖沼、田園など豊かな自然環境や公園、緑地等を活用し、ウォーキングロードやジョギングコースなどを設定します。</p>	<p>◎ウォーキングロード設定事業 松山下公園周辺等に、豊かな緑と田園を活用したウォーキングロードを設定します。</p> <p>◎ジョギングコース設定事業 利根川沿い等にジョギングコースを設定し、各所に案内板等を設け利便性を高めるなど、多くの市民が楽しめるコースを設定します。</p>
<p>③既存スポーツ施設の整備 既存のスポーツ施設の改修時等にあわせ、バックヤード（附帯施設）整備やバリアフリー化を推進していきます。</p>	<p>○バックヤードの整備 既存スポーツ施設において、トイレ、更衣室、オープンルーム等のバックヤードを整備していきます。</p> <p>○バリアフリー化の推進 高齢者や障害者が利活用しやすいようにスポーツ施設のバリアフリー化を推進していきます。</p>

<p>④学校体育施設利用の推進 市民が身近にスポーツ活動に親しめる場として、学校体育施設の開放を推進していきます。</p>	<p>○学校体育施設開放事業 体育館、グラウンド、プール等学校体育施設のより一層の利活用を図ります。</p>
--	---

(2) 利用しやすいスポーツ施設の運営

施策の概要

市民の多様なスポーツ施設ニーズに対応するため、利用者等の自主的管理の方策について検討するなど、より「利用しやすい」施設運営に取り組んでいきます。

具体的な施策と事業等

施 策	事 業 等
<p>①利用者の視点に立った施設運営 スポーツ施設の利用手続など市民の視点に立った施設運営につとめます。</p>	<p>○スポーツ施設の管理・運営 指定管理者制度等の導入を含め、利用しやすい施設管理や運営につとめます。 ○学校体育施設の管理・運営 学校体育施設をより使いやすくするため、運用方法についての仕組みづくりを推進していきます。</p>
<p>②スポーツ施設利用の多様化への対応 多様なスポーツ施設ニーズに対応するために、民間施設等を含めより一層の施設利用を推進していきます。</p>	<p>○民間施設の有効活用 民間所有地等を継続的に借用し、市民がスポーツ施設として有効活用できるようにつとめます。</p>

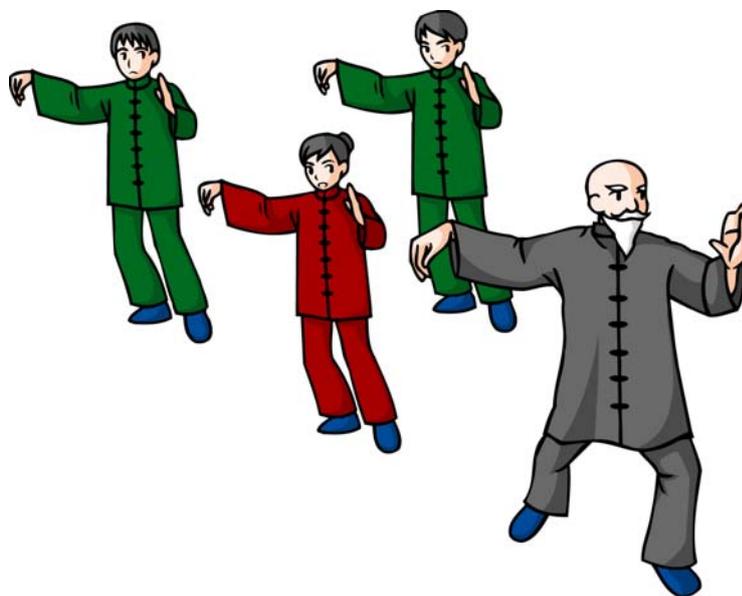
4-2 スポーツ人材の育成

スポーツの振興には指導者等が大きな役割を果たしています。競技スポーツはもちろんのこと、生涯スポーツにおいては、「スポーツをする機会の少ない人」「普段スポーツをしていない人」の参加を促すためにも、行政だけでなく体育協会、体育指導委員、スポーツ少年団、スポーツボランティアなど市民との協働により、多様なスポーツ人材の育成を推進していきます。

施策の柱

(1) スポーツ人材の育成と活用

(2) 競技力向上のための支援



(1) スポーツ人材の育成と活用

施策の概要

市民のスポーツ活動を支える多様なスポーツ人材を育成するとともに、その活用を促進するようにつとめます。

具体的な施策と事業等

施 策	事 業 等 (◎は重点事業)
<p>①スポーツ指導者の育成 市民のスポーツ活動をささえる多種多様なスポーツ指導者の育成を推進していきます。</p>	<p>◎体育指導委員の充実 地域のスポーツ指導者として、多様な市民ニーズに応じられるよう、研修会への参加や他団体との交流などによるスキルアップを図ります。</p> <p>○生涯スポーツ等指導者の育成 生涯スポーツやレクリエーション活動を推進していく指導者のための研修会を開催します。</p>
<p>②スポーツリーダーバンクの構築 県において推進している同事業をより身近なものとして活用するため、市独自のスポーツリーダーバンクを構築していきます。</p>	<p>○スポーツリーダーの登録 スポーツ団体等の協力により、有資格者を募集し、登録を推進していきます。</p> <p>○スポーツリーダーの派遣 登録されたスポーツリーダーをスポーツ団体などに派遣し、活用を促進していきます。</p>
<p>③スポーツボランティアの育成 各種スポーツイベントやスポーツ活動をサポートするスポーツボランティアを育成していきます。</p>	<p>○スポーツボランティア活動の推進 スポーツイベント等におけるスタッフや運営などへの参加を促進し、スポーツボランティアの育成を推進していきます。</p> <p>○団体等との連携活動 スポーツ団体や地域団体等との連携により、ボランティア活動を推進していきます。</p>

(2) 競技力向上のための支援

施策の概要

競技力向上のため、専門的指導者の育成に加え、スポーツ団体や大会参加選手等を支援していきます。

具体的な施策と事業等

施 策	事 業 等
<p>①スポーツ団体等の活動支援 競技スポーツの選手を育成・強化するため、各種スポーツ団体等の活動を継続して支援していきます。</p>	<p>○団体活動への支援 競技スポーツ選手を育成・強化するため、競技団体の活動を支援していきます。</p> <p>○選手等への支援 千葉県民体育大会等へ出場する市の代表選手等を支援していきます。</p> <p>○専門的指導者等の活用支援 競技力向上を目指すために、企業や大学と連携して、専門的な指導者の活用を支援していきます。</p>
<p>②競技力向上の推進 競技力向上のために選手との交流やセミナーの開催を推進していきます。</p>	<p>○トップレベル選手との交流 ラグビーまつり等のイベントを通じ、トップレベル選手との交流を図り、多くの市民が感動を共有したり、スポーツへの関心を高める機会を提供します。</p> <p>○スポーツ医・科学セミナーの開催 選手等の専門知識を高めるため、スポーツ医・科学に関するセミナーを開催します。</p>

4-3 スポーツ機会の充実

市民の多様なスポーツニーズに対応し、市民の誰もがスポーツ活動に参加できる機会を創出していきます。また、スポーツを通じて市民の健康づくり・体力づくりが行える環境整備を推進していきます。

施策の柱

(1) スポーツ情報の提供

(2) スポーツ参加機会の創出

(3) スポーツイベント等の充実と大会誘致

(4) 青少年のスポーツ機会の充実



(1) スポーツ情報の提供

施策の概要

スポーツ情報の入手はスポーツ参加に大きな役割を果たすことから、スポーツ指導者、スポーツボランティア、医師（スポーツドクター）、スポーツ団体、施設・設備、イベントや講習会・教室、サークル、クラブなど様々なスポーツ関連の情報を収集し、市民にわかりやすく提供していきます。

具体的な施策と事業等

施 策	事 業 等
<p>①スポーツ情報システムの整備 スポーツに関する様々な情報を市民に提供するためのネットワークづくりを推進していきます。</p>	<p>○「公共施設予約システム」の活用 現在稼働している「公共施設予約システム」等を有効に活用していきます。</p> <p>○スポーツ情報の集約 スポーツ関連情報を一元的に収集するほか、市民やスポーツ団体等からの情報提供を促進していきます。</p> <p>○多様な情報提供体制 スポーツ情報の提供に際しては、インターネット等ITを活用するほか、市広報や地域のミニコミ誌を活用していきます。</p>

(2) スポーツ参加機会の創出

施策の概要

スポーツは体力の向上や精神的ストレスの発散、生活習慣病の予防など心身における健康増進につながります。未経験者や初心者、高齢者、障害者等がスポーツを始められ親しめるよう、多様な機会を提供していきます。

具体的な施策と事業等

施 策	事 業 等 (◎は重点事業)
<p>①未経験者、初心者向けスポーツ機会の提供 スポーツ参加の機会が少ない市民が、気軽にスポーツを楽しめるよう各種のスポーツ教室等を開催し、スポーツをする機会の拡大を図ります。</p>	<p>◎スポーツ教室の推進 各種スポーツ教室等を開催し、初心者が気軽に始められるきっかけづくりに取り組みます。</p> <p>○ファミリースポーツ教室の開催 子どもの体力づくりと家族のスポーツ参加を促進するため、ファミリースポーツ教室を開催します。</p>
<p>②高齢者の運動・スポーツの促進 高齢者が気軽にスポーツ活動を行うことができるよう、各種の運動・スポーツプログラムを提供します。</p>	<p>○高齢者向け運動・スポーツプログラムの提供 自宅などで手軽にできる体操やストレッチなどのスポーツメニューを提供します。</p> <p>○高齢者向けスポーツ教室の開催 高齢者の年齢や体力に適したスポーツ教室を開催します。</p>
<p>③障害者のスポーツ参加の促進 障害者のスポーツ活動やスポーツ観戦への参加を促進します。</p>	<p>○スポーツボランティアの活用 障害者のスポーツ参加を促進するため、スポーツボランティアの活用を支援します。</p> <p>○スポーツ団体、障害者団体等との連携推進 障害者がスポーツに組みやすくなるため、各種団体等の連携を図り、一緒に参加できるような支援を行います。</p>

<p>④市民参加型スポーツの普及・振興 スポーツ参加を促進するため、市民のだれもが参加しやすいニュースポーツ教室等を開催し、スポーツにふれる機会を提供していきます。</p>	<p>○ニュースポーツ教室・大会の開催 個人や家族、仲間が気軽に参加して楽しめるニュースポーツ教室・大会の開催を支援していきます。</p> <p>○ニュースポーツ団体等への支援 ニュースポーツ関連団体等の活動を支援していきます。</p>
<p>⑤スポーツによる健康づくりの推進 運動やスポーツを通じた健康の保持増進に取り組んでいきます。</p>	<p>○スポーツを通じた健康づくりプログラムの提供 トレーニング機器を活用するほか、専門家の指導等により、健康づくりを支援していきます。</p> <p>○健康・体力づくり教室の開催 ウォーキング・ジョギング、ヨガなど市民が手軽にできる教室を開催します。</p> <p>○スポーツ健康相談窓口の推進 スポーツ・健康づくりに関する市民の様々な相談に対応するとともに、運動方法などのプログラムを提供します。</p> <p>○スポーツセミナーの開催 手軽に取り組むことのできる健康づくりや具体的な運動方法を指導し、健康への意識啓発を図ります。</p>

(3) スポーツイベント等の充実と大会誘致

施策の概要

スポーツイベントは、「する」「みる」「ささえる」すべての要素がそろっており、多くの市民が何らかの形で参加でき、その後のスポーツ活動の継続・促進につながります。スポーツイベントを充実させるために、市民—スポーツ団体・地域団体—学校—企業等とが連携協力できるよう工夫していきます。

具体的な施策と事業等

施 策	事 業 等 (◎は重点事業)
<p>①市民ぐるみスポーツイベントの推進</p> <p>市民の関心を高めるため、魅力あるイベントづくりを推進していきます。</p>	<p>◎市民ぐるみスポーツイベントの開催 「スポーツ・健康フェスタ」などの市民ぐるみのイベントのPR活動や内容の充実を図り、市民参加型のスポーツイベントを開催します。</p> <p>○市民スポーツ大会の支援 スポーツ団体等が主催する各種スポーツ大会やイベントを支援していきます。</p> <p>○各種スポーツ教室の活用 スポーツ教室からスポーツ大会へと誘導し、市民の継続的なスポーツ活動を推進していきます。</p>
<p>②スポーツイベントの誘致</p> <p>市民がトップレベルのスポーツを観て楽しむとともに、スポーツへの関心を高めるようイベントの開催誘致を推進していきます。</p>	<p>○国民体育大会の開催 平成 22 年に千葉県で開催される第 65 回国民体育大会において、本市が「山岳競技」の開催地となることから、同競技を市民ぐるみで盛り上げていきます。</p> <p>○スポーツイベントの誘致 松山下公園等のスポーツ中核施設を活用し、大規模なイベントを積極的に誘致していきます。</p> <p>○ストリートイベントの支援 市民のスポーツへの関心を高めるため、身近で「する」「みる」イベントとして、ストリートイベント等の開催を支援していきます。</p>

(4) 青少年のスポーツ機会の充実

施策の概要

学校などでのスポーツ活動は、体力の向上に大きく寄与するとともに、その後のスポーツライフに影響していきます。

青少年のスポーツ活動の中心である学校での運動部活動のさらなる充実を図るため、学校間連携、学校・地域スポーツ団体連携等を積極的に支援していきます。

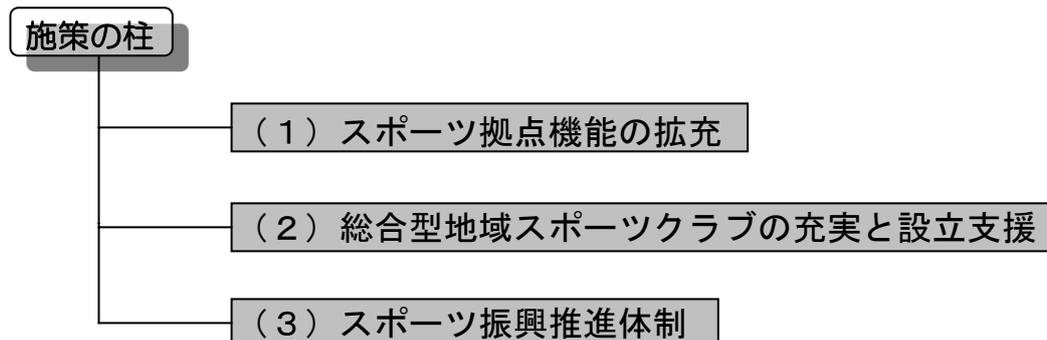
また、スポーツ活動をしていない青少年が、仲間と気軽に遊んだり、スポーツに興じたりできるよう、スポーツ参加の機会を拡大していきます。

具体的な施策と事業等

施 策	事 業 等 (◎は重点事業)
<p>①学校体育の充実 児童・生徒の体力向上や運動機会を確保するため、学校体育、運動部活動の充実を図ります。</p>	<p>○スポーツ指導者の派遣 競技レベル向上のために、学校の部活動に地域のスポーツ団体等から指導者を派遣します。</p> <p>○学校間等連携活動の支援 学校間で、あるいは学校と地域スポーツ団体との合同練習等ができるよう、学校間及び地域スポーツ団体等との連携を支援していきます。</p> <p>○大学等との提携 大学等との提携により、教育実習や実務実習（インターンシップ）等を有効活用し、体育授業や学校運動部活動の充実を図ります。</p>
<p>②身近なスポーツ機会の提供 子どもたちが気軽に遊びやスポーツに親しむ場を提供します。</p>	<p>◎総合型地域スポーツクラブへの参加促進 地域、クラブ、学校との連携を図り、気軽に参加できるようにつとめます。</p> <p>○外遊びの推進 子どもの運動機会の拡大を図るため、公園や広場などの屋外で楽しめる機会を推進していきます。</p>

4-4 スポーツ推進体制の整備

スポーツ環境の整備やスポーツ機会の拡大を図っていくために、組織づくりや拠点づくりなど、行政、市民、団体等が連携・協働できる体制を整備していきます。



(1) スポーツ拠点機能の拡充

施策の概要

松山下公園にスポーツ施設が集積していることから、ここを本市のスポーツ拠点として機能させるため、ハードウェア（施設）・ソフトウェア（仕組み）・ヒューマンウェア（指導者）が一体となったスポーツ中核拠点として、機能の拡充を推進していきます。なお、このスポーツ中核拠点は、後述する総合型地域スポーツクラブとの関連では、各地域のクラブと恒常的に連携していくこととなります。

具体的な施策と事業等

施 策	事 業 等（◎は重点事業）
<p>①スポーツ中核拠点として松山下公園の機能の拡充</p> <p>スポーツ施設が集積する松山下公園を本市のスポーツ中核拠点とし、「する」「みる」「ささえる」機能を拡充していきます。</p>	<p>◎スポーツ団体、指導者の育成</p> <p>市民のスポーツ活動をささえるスポーツ団体や指導者のための研修会を開催し、様々な市民ニーズに対応する協働体制を構築していきます。</p> <p>○スポーツ情報システム等の活用</p> <p>スポーツ施設の効率的な運営を図るとともに、市民の多様なニーズに対応できるようスポーツ情報システムを活用し、情報交流を推進していきます。</p> <p>○主要スポーツ施設の整備</p> <p>松山下公園のスポーツ施設で、大規模なスポーツイベントが開催可能な高水準の機能、設備を備えた施設を整備していきます。</p> <p>※ 防災拠点</p> <p>災害時の広域避難場所となりうる防災機能を持たせていきます。</p>

(2) 総合型地域スポーツクラブの充実と設立支援

施策の概要

総合型地域スポーツクラブは、地域で子どもから高齢者まで多世代が参加し、多種目のスポーツ活動ができるスポーツクラブです。目的やレベルに応じて多様な目的で地域住民が参加し、スポーツ活動を通して、メンバー間の交流や地域交流が深まり、まちづくりの重要な基盤ともなるもので、地域の活性化に大きな役割を果たすことが期待できます。

本計画においては、市民のスポーツ活動の主要基盤としてとらえ、同クラブの充実と設立支援を積極的に推進していきます。

【総合型地域スポーツクラブの特徴とイメージ】

- ①子どもから高齢者までの様々な年齢層の交流が期待できます。
- ②体力や年齢、目的に応じて複数のスポーツ種目を楽しむことができます。
- ③利用できるスポーツ施設やクラブハウスが身近なところにあり、定期的、計画的な活動を継続して行えます。
- ④質の高いスポーツ指導者のもとで、いろいろなニーズに応じた適切な指導が行われます。
- ⑤クラブ運営は地域の人々が会費を出し合い(受益者負担)、主体的に運営します。

【総合型地域スポーツクラブのエリア設定の視点】

- ①公共施設・民間施設、公園や空き地などの運動可能なスペースの量。
- ②活動しているクラブや団体の数や種目、活動内容、場の過不足、課題など。
- ③地域の中で行われている地区や町内会、自治会などのスポーツや催しや行事が1年の間にどこで、どのように行われているのか。活動内容や推進母体など。
- ④体育指導委員、スポーツリーダー、スポーツボランティア、町内会・自治会などの役割や活動の特徴。
- ⑤地域の中で行われているスポーツ行事、スポーツ活動の経費、財源など。

具体的な施策と事業等

施 策	事 業 等 (◎は重点事業)
<p>①総合型地域スポーツクラブの育成 各地域において、子どもから高齢者まで、日常的に気軽にスポーツや健康づくりを行い、地域交流を深めることができるような多目型のスポーツクラブを育成していきます。</p>	<p>◎総合型地域スポーツクラブの設立支援 地域のスポーツ団体やスポーツ指導者等と連携・協力しながら、新規設立を支援していきます。</p> <p>○総合型地域スポーツクラブの充実 牧の原総合型地域スポーツクラブをより充実していくため、同クラブの活動を支援していきます。</p> <p>○市民への啓発活動の促進 市民に総合型地域スポーツクラブの趣旨を知ってもらうために、パンフレットの配布など、普及・啓発活動を促進していきます。</p>

(3) スポーツ振興推進体制

施策の概要

様々な市民ニーズに応えるために、教育、健康づくり、福祉、まちづくり等と連携協力してスポーツ振興施策の総合的な推進を図っていきます。

施 策	事 業 等
①スポーツ行政の総合的な推進 スポーツ振興と関係する行政機関やスポーツ団体・民間等との連携・協働体制を推進していきます。	○関係各課との連携 関連各課と連携し、各種施策を効率的・効果的に推進していきます。
	○関係団体等との連携 体育協会等スポーツ団体、各種地域団体、大学、民間企業等と連携を図り、スポーツ振興の協働体制を築いていきます。

4-5 数値目標

計画の基本理念、基本方針に基づき、各種スポーツ振興施策の実施により、市民のスポーツ参加率を高めるため、具体的な目標を掲げ各種事業を推進していきます。

本計画では、スポーツ実施率、スポーツ大会・行事への参加率、スポーツクラブ・同好会への加入率を、市民のスポーツ参加率の目安として、それぞれに目標値を定めます。

なお、目標値については、平成 18 年度に実施した「印西市のスポーツ振興に向けたアンケート集計結果」による数値を現状とし、本計画の最終年度である平成 29 年度を目標として設定します。

■具体的な目標

項 目	現状（平成 18 年度）	目標（平成 29 年度）
週 1 回以上のスポーツ実施率（成人）	30.3%	60.0%
スポーツ大会・行事への参加率	13.7%	30.0%
スポーツクラブ・同好会への加入率	22.7%	40.0%

参考資料

1 「印西市スポーツ振興に向けたアンケート調査」結果概要

【一般市民】

○調査対象 印西市在住の満18歳以上

○調査の実施時期 平成19年1月5日～平成19年1月22日

○配布回収方法 郵送による配布・回収

○配布数 2,500件 有効回答数 1,240件（有効回答率49.6%）

○有効回収数の内訳

	合計	18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
男	559	7	59	66	105	143	106	73
性	100.0	1.3	10.6	11.8	18.8	25.6	19.0	13.1
女	681	16	66	88	166	178	95	72
性	100.0	2.3	9.7	12.9	24.4	26.1	14.0	10.6
合計	1,240	23	125	154	271	321	201	145
	100.0	1.9	10.1	12.4	21.9	25.9	16.2	11.7

【児童・生徒】

○調査対象 印西市在住の小学校5年生、中学校2年生

○調査の実施時期 平成19年1月10日～平成19年1月22日

○配布回収方法 学校での個別配布・回収

○配布数 500件 有効回答数 487件（有効回答率97.4%）

○有効回収数の内訳

	件数	%
1. 小学校5年生	303	62.2
2. 中学校2年生	184	37.8
合計	487	100.0

【一般市民】

①健康状態、体力等

- 現在の健康状態は、「健康である（健康である＋どちらかといえば健康である）」が8割強。
- 体力については、「不安がある」人が約5割であり、「不安はない」人が4割強と、不安を感じている人が多い。
- 健康・体力については、体力の衰えを「感じる」が8割、運動不足を「感じる」が7割弱となっており、体力の保持や運動不足の解消に向けた環境づくりが必要となっている。
- 健康保持・体力増進のために「注意している」が8割強。注意していることは、「食生活に気をつけている」が7割弱で最も多く、「体操やスポーツをする」は3割。（複数回答）

②スポーツ活動について

- スポーツを行ったり、観戦したりすることが好きか——「どちらかといえば観戦する方が好き」3割強、「自分で行うのも観戦するのも好き」3割弱となっており、「好き」が約8割。
「自分で「行う」のも「観戦」するのも嫌い」や「どちらも関心がない」は1割。
- 普段もっとスポーツを行いたいと「感じている」が7割強である。
- スポーツを始めたきっかけは何かについては、「学生時代に経験した」が2割強、「職場・地域の人などの誘いによる」が2割で上位であり、「スポーツ教室や大会など行事に参加して」は1割に満たない。スポーツ教室や地域イベントなど参加環境の多様化が必要である。
- スポーツ活動の頻度は、「週1～2回」が全体の約2割、次いで「月1回程度」「月2～3回」が1割強になっている。なお、「行っていない」が4割強である。
- スポーツを主にだれと一緒に行うかについては、「一人で」と「家族」とする人が多い。

- 行っているスポーツはなににかについては、「ジョギング・ウォーキング」が3割強、「体操（ラジオ体操、健康体操など）」と「ゴルフ」が2割などで上位になっている。

今後も行いたい（行ってみたい）スポーツは、「ジョギング・ウォーキング」が4割弱、「水泳」3割強、次いで「ヨガ」が3割弱、「テニス」と「ボウリング」が2割強となっている。

観戦してみたいスポーツについては、「野球（硬式・軟式）」が5割弱、「サッカー」が4割強、「バレーボール」が2割強、「陸上競技」と「スケート」が2割。（複数回答）

- スポーツをするときに妨げになることは、「仕事(家事・育児)が忙しい」や「時間がない」、「お金がかかる」などが上位である。（複数回答）

③スポーツの指導やイベントへのボランティア活動について

- スポーツに関するボランティア活動に参加したいと思うかについては、「できれば参加したい」は2割弱。参加したいと思う活動は、「スポーツ行事・大会・イベント等の手伝い（スポーツ大会などの不定期な活動）」が5割強。

④スポーツ施設について

- スポーツ施設の利用度については、「月に1回以下」が3割強で最も多い。
- 普段どこでスポーツをするかについては、「自宅」と「市内の公共スポーツ施設（学校を除く）」が多くなっている。（複数回答）
- 印西市内に十分なスポーツ施設があると思うかについては、「満足できない」と「知らない、関心がない」が4割、「満足している」は1割未満である。
- 今後、印西市に整備して欲しいと思う施設としては、「総合体育館」が4割、「トレーニング室」が3割強、「温水プール」が2割強、「多目的広場」が2割など。（複数回答）
- スポーツ施設に望むことは、「利用手続きを簡単にして欲しい」や、「個人や家族で利用できるようにして欲しい」、「初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事を充実して欲しい」、「活動情報をもっと流して欲しい」、「利用時間を長くして欲しい（早朝、夜間等）」など。

⑤スポーツクラブ・同好会、総合型地域スポーツクラブについて

- スポーツのクラブや同好会に、「加入していない」7割強、「加入している」2割強。
- クラブや同好会に加入した動機については、「健康・体力づくりのため」が5割強、「好きなスポーツ活動ができるから」5割弱、「継続してできるから」が4割強、「親睦のため（仲間ができるから）」が4割などとなっている。（複数回答）
- 印西市内に新たに総合型地域スポーツクラブが設立された場合、どのような条件が整えば会費を出して入会しても良いと思うかについては、「年齢・体力にあったプログラムの提供」が5割弱、「駐輪場・駐車場の完備」が4割弱、「施設の利用料金の割引」が3割強、「健康チェック指導」と「シャワー、ロッカーの完備」が3割弱などとなっている。（複数回答）

⑥知りたいスポーツ情報や入手方法、スポーツ振興策について

- 知りたい印西市のスポーツ情報は、「施設の利用方法」や「施設の有無や施設概要」、「施設の予約情報」が上位であり、施設に関する情報提供が求められている。（複数回答）
- 印西市のスポーツ情報をどのようにして得ているかは、「行政が出す刊行物・パンフレット」が6割弱で最も多い。（複数回答）
- 印西市のスポーツ活動を振興するために大切なことはどのようなことかは、「市民が利用しやすい施設運営」や「身近なスポーツの場所や施設の整備」が上位である。（複数回答）
- スポーツ振興にどのような効果を期待するかは、「市民の健康増進」や「高齢者の生きがいつくり」、「自由（余暇）時間の有効活用」などである。（複数回答）

【児童・生徒】

①スポーツ活動の状況

- 「毎日の生活は楽しいか」については、「楽しい」が小学校5年生では8割強、中学校2年生では6割弱と、中学生になると「楽しさが」下がるという結果になっている。

- スポーツが、「好きである」が小学校5年生では7割、中学校2年生では6割強と下がっている。なお、好きな理由としては、「体を動かすことが楽しい、好きだから」が最も多く、次に「仲間と一緒にできるから」、次いで、「技術が向上したり、試合に勝つことが楽しい」などとなっている。
嫌いな理由としては、「苦手、好きでない」、「疲れる、面白くないなど」、「仲間への気兼ね」などである。
- 学校のスポーツクラブ活動や運動部活動に、「参加している」が8割、「参加していない」が2割である。
参加しているスポーツは、小学校5年生では、「陸上競技」が8割強で最も多く、次に「ミニバスケットボール」が3割、次いで「卓球」と「バドミントン」が1割強である。
中学校2年生では、「陸上競技」が2割で最も多く、次に「サッカー」と「バスケットボール」と「ソフトテニス」がそれぞれ1割、次いで「野球」と「剣道」が1割弱である。
- 学校のスポーツクラブや運動部活動を選んだ理由としては、小学校5年生では、「スポーツがうまくなりたいたいから」と「スポーツが好きで楽しいから」が6割強、「体も心も健康でたくましくなりたいたいから」が3割強である。
中学校2年生では、「スポーツが好きで楽しいから」が6割、「スポーツがうまくなりたいたいから」が5割、次いで「試合で勝ちたいから」が4割弱である。
- 学校のスポーツクラブや運動部活動に参加したことによって感じたことは、小学校5年生、中学校2年生ともに、「体力がついてきた」「スポーツの楽しさがわかった」「スポーツがうまくなってきた」が上位になっている。
- 市内の他中学校と合同して運動部活動をするということについて、「賛成である」が5割。
- 学校のスポーツクラブや運動部活動以外で、市内にあるスポーツクラブ（スポーツ少年団等）等に入っているかについては、小学校5年生では、「地域のスポーツ少年団に入っている」が4割弱で最も多い。
- 入っているスポーツは、サッカー（34件）、バスケットボール（25件）、野球（23件）、水泳（22件）、テニス（19件）、ミニバスケットボール（17件）、陸上競技（12件）など。

- スポーツをする場所については、小学校5年生では、「学校」が6割強で最も多く、次に「近所の公園や広場」が4割、次いで「市のスポーツ施設」が3割となっている。

中学校2年生では、「学校」が9割弱で最も多く、次に「近所の公園や広場」が2割強、次いで「市のスポーツ施設」が1割強となっている。

②お父さん、お母さんのスポーツ参加について

- お父さんが、スポーツを行っていたことを聞いたことがあるかについては、「行っている・聞いたことがある」が6割弱、「行っていない・聞いていない」が4割強である。

「行っている・聞いたことがある」種目は、野球(61件)、テニス(31件)、ゴルフ(27件)、サッカー(20件)、バスケットボール(18件)、剣道(15件)、バレーボール(13件)、水泳(12件)、卓球(10件)など。

- お母さんが、スポーツを行っていたことを聞いたことがあるかについては、「行っていない・聞いていない」が6割弱、「行っている・聞いたことがある」が4割弱である。

「行っている・聞いたことがある」種目は、テニス(52件)、バレーボール(44件)、水泳(17件)、バスケットボール(14件)、バドミントン(11件)、陸上(10件)など。

2 関係団体ヒアリング調査

本計画を策定するにあたり、スポーツ関係団体及び庁内の関係各課に記述式ヒアリング調査を実施しました。

- ・ 体育協会加盟競技団体調査
- ・ スポーツ少年団加盟団体調査
- ・ 高齢者団体調査
- ・ 障害者団体調査
- ・ 庁内関係各課調査

3 印西市スポーツ振興審議会

印西市スポーツ振興審議会条例

平成 17 年 12 月 14 日

条例第 30 号

改正 平成 19 年 3 月 2 日条例第 4 号

(設置)

第 1 条 スポーツ振興法（昭和 36 年法律第 141 号。以下「法」という。）第 18 条第 2 項の規定により、印西市スポーツ振興審議会（以下「審議会」という。）を置く。

(所掌事務)

第 2 条 審議会は、法第 4 条第 4 項及び第 23 条に規定するもののほか、印西市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の諮問に応じて、スポーツの振興に関する次の事項について調査審議し、及びこれらの事項に関して教育委員会に建議する。

- (1) スポーツの施設及び設備の整備に関すること。
- (2) スポーツの指導者の養成及びその資質の向上に関すること。
- (3) スポーツの事業の実施及び奨励に関すること。
- (4) スポーツ団体の育成に関すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、スポーツの振興に関すること。

(組織)

第 3 条 審議会は、委員 10 人以内で組織し、市民の代表者、スポーツに関する学識経験のある者及び関係行政機関の職員のうちから、教育委員会が市長の意見を聴いて委嘱又は任命する。

2 委員の任期は、2 年とする。ただし、再任は妨げない。

3 委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第 4 条 審議会に会長及び副会長各 1 人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第 5 条 審議会の会議は、必要に応じ会長が招集し、会長が会議の議長になる。

2 会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 審議会は、必要があると認めたときは、関係者の出席を求め、説明又は意見を求めることができる。

(庶務)

第6条 審議会の庶務は、教育委員会教育部スポーツ振興課において処理する。

(委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

この条例は、平成18年4月1日から施行する。

附 則 (平成19年3月2日条例第4号)

この条例は、平成19年4月1日から施行する。

印西市スポーツ振興審議会委員名簿

任期 平成18年6月1日から平成20年5月31日まで

氏 名	備 考
◎野川 春夫	順天堂大学教授
武藤 輝久男	市体育協会理事長
齊藤 輝一	市体育協会理事
梅澤 章子	公認スポーツプログラマー
石井 三幸	牧の原スポーツクラブ指導者
大島 康裕	(株)ジョイフルアスレチッククラブ支配人
青柳 登志子	軽スポーツ・インディアカ「フレッシュクラブ」代表
○伊東 洋樹	原山小学校教頭
鈴木 文光	市立福祉作業所主任
新川 彰	市民公募

◎は審議会会長 ○は審議会副会長

4 印西市スポーツ振興基本計画策定検討委員会

印西市スポーツ振興基本計画策定検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 印西市スポーツ振興基本計画（以下「計画」という。）の策定にあたり、各部門の意見を聴き、各部門間の調整を図り、及びその円滑化に資するため、印西市スポーツ振興基本計画策定検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(職務)

第2条 委員会は、計画の策定に関する企画立案等の調査及び研究を行うものとする。

(組織)

第3条 委員会は、別表に掲げる課の職員の中から教育委員会が任命又は委嘱する委員をもって組織する。

2 委員会に、委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

3 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代理する。

(任期)

第4条 委員の任期は、計画の策定が完了するときまでの期間とする。

(会議)

第5条 委員会は、必要に応じ委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 委員長は、必要があると認めるときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、教育部スポーツ振興課において処理する。

(補則)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成18年11月2日から施行する。

附 則

この要綱は、平成19年4月12日から施行し、改正後の印西市スポーツ振興基本計画策定検討委員会設置要綱の規定は、平成19年4月1日から施行する。

印西市スポーツ振興基本計画策定検討委員名簿

部	課
健康福祉部	社会福祉課
健康福祉部	子育て支援課
健康福祉部	介護福祉課
健康福祉部	健康増進課
都市建設部	都市整備課
教育委員会 教育部	教育総務課
教育委員会 教育部	学校教育課
教育委員会 教育部	生涯学習課
教育委員会 教育部	スポーツ振興課

5 印西市の主な公共スポーツ施設

施設名	施設内容	料金
松山下公園	野球場 1 面 陸上競技場 テニスコート 8 面	有料 有料 有料
高花公園	テニスコート 2 面 野球場 1 面	有料 有料
牧の原公園	テニスコート 3 面	有料
六軒河川敷運動広場 ※	野球場	無料
東京電機大学平岡グラウンド ※	野球、ラグビー、サッカー、 レクリエーション等多種目使 用	無料

※借用地

平成 20 年 3 月

印西市スポーツ振興基本計画

発行：千葉県印西市

編集：教育委員会教育部スポーツ振興課

〒270-1396 千葉県印西市大森 2364-2

電話 (0476) 42-5111

URL <http://www.city.inzai.chiba.jp/>

e-mail sportska@ml.city.inzai.chiba.jp

